

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○7月27日～

米国とイランの戦闘が続いており、原油高やインフレ(物価高)への懸念が強まっています。
フーシ派(イエメンの親イラン武装組織)が20日に紅海(バブ・エル・マンデブ海峡)を封鎖したことでサウジアラビアの石油輸出に影響が出ています。

紅海でサウジのタンカーが攻撃されたことに対し、サウジもイエメンにあるフーシ派の軍事目標を空爆するなど状況は悪化しています。

2つの海峡が封鎖されたことで、日本への影響も心配です。

米国はイランへの攻撃を一時停止すると発表しましたが、中東情勢から目が離せません。

有事のドル買いもドルを支える要因となっています。

ドル高・円安のトレンドが転換する材料はほとんどなく、じわじわと円安が進んでいく可能性があります。165円は節目のレートとなるので、このあたりでは介入があるかもしれません。

そして、しばらく落ち着いていた関税問題が再燃しています。

米国は先週、カナダに追加関税50%をかけると発表しました。

カナダとの交渉は続くと思いますが、関税は30日以内に発動するとしています。

そして、相互関税の代わりに、日本を含む60の国と地域に10%か12.5%の新たな関税を課すと発表しました。

日本は12.5%になるようですが、これ以上の関税が課されている品目については現状維持ということです。

また、欧州が今年は40度Cを超える暑さになっていますが酷暑のフランスとスペインが森林火災でひどいことになっています。スペインは非常事態宣言を発表しています。

異常気象が農産物などにも影響しそうです。

ファンダメンタルを考えるとマーケットに良いニュースはあまり見当たりません。

先週、ドル／円は164円あたりまで円安が進みました。

今週は日銀金融政策決定会合とFOMCがあるので、日米の金融政策の行方に注目が集まっています。予想では、日米ともに金利を据え置くとなっていますが日本の円安が止まらない場合、サプライズで利上げもあるかもしれません。

日本は利上げでなく、国債の買い支えで長期金利の上昇をおさえたいと考えているのでしょうか。

米国としては、米国債を売って円を買う為替介入はあまりしてほしくないというのが本音でしょう。

米国から為替について何かコメントが出るかどうかにも注目したいです。

● テクニカルで見た重要ポイントは？

<ドル／円>

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

ドル／円は何度も頭打ちとなっていた162円後半を上抜けて、164円あたりまで値を伸ばし、163円台後半でマーケットが終わっています。

163円を超えてきたことから、今度は163円あたりがサポートとして意識されます。

163円を維持している間は強い動きが続きそうです。

162.5円を割り込んでも161台にもサポートがあり、下がれば買いが入りやすい状況が続きそうです。

161.3－164.8円程度のレンジを意識しながらトレードしたいです。

<気になるクロス円>

クロス円もドル／円が高値更新してきたことで、強い動きとなっているペアが多く、上昇が続くかどうかに関心しています。

NZドルは95.5円を超えてくる動きになれば、2024年夏の高値99円を目指す可能性が出てきます。

南アフリカランドは、先週利上げを見送ったことで下げが加速しました。

7月に入ってから週足でも陰線が続いているため安値更新の動きには警戒したいです。

*クロス円とは円との通貨ペアの総称：〇〇／円というような通貨ペアのことです。

<今週のファンダメンタル？>

日本では日銀金融政策決定会合、日銀展望レポート、7月東京都都区消費者物価指数、6月鉱工業生産、植田・日銀総裁定例会見などがあります。

米国では6月耐久財受注、5月ケース・シラー米住宅価格指数、7月リッチモンド連銀製造業指数、7月消費者信頼感指数(コンファレンス・ボード)、FOMC政策金利、ウォーシュ・FRB議長定例会見、6月個人消費支出(PCEデフレーター)、前週分新規失業保険申請件数、4－6月期GDP(速報値)、4－6月期四半期雇用コスト指数、7月シカゴ購買部協会景気指数、7月ミシガン大学消費者信頼感指数などの発表があります。

欧州ではユーロ圏とドイツで4－6月期GDP(速報値)、7月消費者物価指数、ドイツで7月IFO企業景況感指数などがあります。

ほかには、オーストラリアで6月消費者物価指数、英国で政策金利、英中銀金融政策委員会(MPC)議事要旨、カナダで5月GDPの発表などがあります。